



郵便  
**報知新聞**  
 第五百廿五号

新浮の獄、啓助由藏と云ふ兩個の惡漢あり、其小破牢と約束、由藏の懲役多れ、六十日と出牢せり、或夜風雨小来、粉まき長き棒の先小鋸と出刃庖丁と結付之、便て堀堀と衆之獄小近き格子の内一件の品と差入声を潜、我等ハ寺町通真宗寺の祿の下小忍び居、速よ、來りて尋ふと云て去ま、然るに此日啓助ハ様子怪しと目と付別人と入替、あはるめを早速奸謀發覺て其夜一個を罪人、体任立、彼処小遣、偽く由藏と釣出し、忽ち繩をけり、悪物巧ま計ると、虫終は獄吏ま計らるなり

松林伯圓記



全編見

大橋  
 元田彫長

